

教育目標

心豊かにたくましく生きる子ども ～生涯にわたる人格形成の基礎を培う～

年度末の最終評価

自己評価
学校関係者評価

教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し

- ・特に年長児は、安心感と自信をもって生活する姿が見られる。特に様々な人との関わりの中でありのままの自分を表し、学年が上がるにつれて、友達を思う気持ちや自分の気持ちを調整する力が育ってきている。保護者も子どもたちの内面の育ちの重要性を感じている。
- ・自分が大切にされていると感じることが、自分も人も大切にできる姿につながるので、引き続き『その子どもならではの輝き』を見い出し、伸ばしていく姿勢を教職員間・保護者と共有していく。

学校関係者による意見・支援策

- ・アンケートの結果や、日常の保育や行事などでの子どもや保護者の姿などを通して、子どもたちの様々な育ちを感じることができる。特にまずは自分のありのままを十分に出すことが、小学校での学ぶ姿勢につながっていることが分かる。
- ・さらに子どもの自立に向けた保護者の関わり、生活習慣の自立などに向けて、必要な援助をしていきたい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	H30・10・29	学校運営協議会
最終評価	H31・3・19	学校運営協議会

（１）幼児が主体的に遊ぶ姿を重視する

保育の改善・充実

具体的な取組

- ・一人一人の子どもが発達や興味・時期に応じて、主体的に夢中で遊ぶ中での『学びに向かう力』の育ちを検証する。

そのために ○ 週案の作成時に担任を中心に、複数の教職員で話し合う。

○ 日々、きめ細やかな環境構成や教師の援助の工夫を行う。

○ 一人一人の子どもの姿を多方面から見とり、育ちや課題を明らかにする。

特に今年度は子ども一人一人が『自分らしさ』を発揮し、互いを尊重する姿を目指す。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・日々の幼児の姿の変容やエピソード検討
- ・保護者アンケート『園生活の中で、どのように成長したか』
『教職員や友達と一緒に過ごすことを楽しんでいるか』

中間評価

	<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> 日々の幼児の姿の変容やエピソード検討 前期に4回以上の研修の場や日常的な話し合いの中で、一人一人の子どもの育ちや課題、家庭との連携の在り方を見直すことができた。 保護者アンケート 『園生活の中で、どのように成長したか』・・・・・そう思う3歳児98%4・5歳児100% 『教職員や友達と一緒に過ごすことを楽しんでいるか』・・・・・そう思う100%
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> 3歳児も早い時期から安定して園生活を送る姿が見られた。4・5歳では活動の中で自分から意欲的に活動しようとする姿がよく見られた。 一人一人の子どもの育ちや課題を家庭と連携し、より具体的な援助を行えるようになった。 一人一人の課題や援助の在り方をさらに明確にして、日々の保育が行えるように、話し合ったり、研修をしたりする。 <div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> エピソードを持ち寄った話し合い、毎日の意見交流の中で、一人一人の子どもの育ちを捉え、具体的な援助の在り方を探る機会を多くもてるようにする。 家庭へも、子どもの育ちをより具体的に伝える工夫をする。（参観日や懇談の持ち方の改善も含めて） <div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> 日々の幼児の姿の変容やエピソード検討 保護者アンケート『園生活の中で、どのように成長したか』 『教職員や友達と一緒に過ごすことを楽しんでいるか』
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> 行事や参観、日常の保育の中で子どもたちの姿を見る中で、教職員との信頼関係、主体的に活動する姿などがよく見られる。 今後とも、保護者や地域との連携を深め『ともに育てる』姿勢を継続して行ってほしい。

最終評価

	<div>中間評価時に設定した各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> 日々の幼児の姿の変容やエピソード検討 5回以上の研修や日常的な話し合いの中で、一人一人の子どもの育ちや課題、家庭との連携の在り方を見直すことができた。 保護者後期アンケート 『園生活の中で、どのように成長したか』・・・・・そう思う100% 『教職員や友達と一緒に過ごすことを楽しんでいるか』・・・・・そう思う100%
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> 通常保育と預かり保育の教師間の連携を深めることで、子どもの育ちの質や活動の連続性を高めることができた。また『こころの揺れ』について、より丁寧に捉えることが子どもの主体性や夢中になって遊ぶ姿につながった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者全員が身体の成長だけでなく、一人一人の子どもの内面の育ちを捉えていることが分かった。またそれぞれの学年ごとに必要な育ちを実感として捉えられていた。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・さらに、一人一人の教職員の子どもの姿の捉え方を互いに伝え合い、より深い子どもの理解につなげていくことが必要である。 ・一人一人の育ちの小さな芽を、より丁寧に捉えることができるように、教職員同士が気づきを伝え合うことをさらに大切にしていく。
	重点目標の達成状況、次年度の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・自発的に周りの環境に関わる力はおおむね身についてきているが、様々な要因により主体的に活動することが難しい子どもに対しての援助の在り方をさらに探っていききたい。 ・『安心感・安定感』をもって生活している姿が見られる。さらに連続性のある活動の中で、自己発揮ができるような援助の在り方について探っていききたい。 ・また特に5歳児では、子ども全員の思いを十分に表した上での『協同性』を目指していききたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・主体的な活動の大切さは痛感している。さらに活動の自由性を高めるために、安全の見守りの支援など、要請を受ければ行うことはできる。 ・地域に貢献できる人材を幼児期から育てていくことは大切なので、引き続き地域ならではの活動の支援をしていく。

（２）小学校段階への学びにつなぐ「学びに向かう力」を育む **幼小接続の視点**

具体的な取組 <ul style="list-style-type: none"> ・「学びに向かう力」の育ちの姿を幼稚園以外の関係者にもわかりやすく発信する。 ・引き続き、２回以上の教職員の合同研修・４回以上、互いの授業や保育を見る機会を設ける。
（取組結果を検証する）各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・「学びに向かう力」の育ちの姿に関するエピソードの数 ・研修回数 ・アンケート項目『自分の気持ちを伝えようとしているか』 『好奇心をもって遊んでいるか』

中間評価

各種指標結果	
・「学びに向かう力」の育ちの姿に関するエピソードの数 各学年からのエピソードや「はなうりやさん」「プール遊び」などの活動を通しての育ちのリーフレットなど１２以上のエピソードをもとに研修できた。	
・研修回数 毎月１回以上の研修を行い、一人一人の子どもの育ち、特に課題をもつ子どもの援助の在り方や家庭との連携について協議することができた。	
・アンケート項目『自分の気持ちを伝えようとしているか』　そう思う・・・１００％ 『好奇心をもって遊んでいるか』そう思う・・・１００％	
自	分析（成果と課題）

自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度以上に、保護者に幼児期に大切にしたい力（小学校以降の学びに向かう力）を伝え、理解を得ることができた。 ・日常的な小学校教職員との交流の中で、子どもの育ちや援助の連続性や関わりの在り方などについての協議を行うことができた。 ・その結果、全学年ともに自分の気持ちや思いをありのままに、まず表出する力が高まり、安心感を感じている姿がよく見られる。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・後期では、さらに一人一人の子どもの『伸びようとしている力』や『課題』を明確にして援助できるように、園内研修や日常的な話し合いを充実させる。 ・幼稚園の教職員が小学校に出向く機会を多いが、小学校教職員が園に来られる機会は少ない。小学校の教育活動を十分に考慮したうえで、引き続き園の保育を公開する機会を設けたり、育ちの過程がわかるリーフレットなどを作成したりする。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・「学びに向かう力」の育ちの姿に関するエピソードの数 ・研修回数（特に小学校の教職員が、幼稚園を訪問する機会を設ける） ・アンケート項目『自分の気持ちを伝えようとしているか』 『好奇心をもって遊んでいるか』
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・南浜学区の伝統である保幼小中連携を、さらに発展し、子どもたちの育ちにつながっていることが良く分かる。 ・運営協議会としても行事などで、引き続き支援を続けていきたい。園や学校側から、また違った場面での支援が必要な場合は積極的に申し出てほしい。

最終評価

自己評価	中間評価時に設定した各種指標結果 <ul style="list-style-type: none"> ・「学びに向かう力」の育ちの姿に関するエピソードの数 預かり保育と通常保育の連続性に焦点を当てつつ、多様な学びに向かう力を育てる20以上のエピソードを検討し、日常の遊びの中での子どもたちの育ちをより丁寧に見出すことができた。 ・研修回数 毎月研修以外にも、日常的な話し合いの中で、一人一人の子どもの思い・育とうとしているところ・課題やその課題に対する具体的な援助の在り方について協議することができた。 ・アンケート項目『自分の気持ちを伝えようとしているか』　そう思う・・・100% 『好奇心をもって遊んでいるか』　そう思う・・・100%
	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・小学校児童との交流活動・また小学校教職員と合同の研修や互いの教育を知る機会（日常の保育に加え、研究保育・研究発表・作品展・生活発表会など）をもつことができた。 ・今年度は小学校に対しても『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』を意識して、保育参観をしたり、幼児の姿を伝えたりした。 ・地域関係者・学校関係者などに様々な場で、子どもの姿（遊びや生活の様子）の中での学びについて以前よりも具体的に話すことができた。 ・教職員が、子どもの表現をまずは『肯定的』に受け止めてから、教師側の願いを伝える姿勢を大切にすることで、子どもたちが以前よりも、言葉や表情で自分の気持ちや思いを伝える姿がよく

学校関係者評価	見られる。 ・教職員が教材研究の幅を広げたことで、子どもたちの『夢中』の姿をより多く引き出すことができた。
	分析を踏まえた取組の改善 ・引き続き、小学校との日常的な連携、教職員同士の『心の通い合った』交流を深めていく。 ・保護者・地域・学校・他の保育施設に向けて、遊びの中の育ちや主体的な活動の大切さについて、より分かりやすく発信できるようにする。 ・子どもたちの『夢中』を引き出すための教材研究や環境構成についてさらに教職員同士が意見を交流させて、よりよいものにしていく。
	重点目標の達成状況、次年度の課題 ・特に『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を意識して子どもの姿を捉えたり、必要な援助や環境について探ったりしたことで、子どもたちの安定感をより確かなものとすることができた。 ・家庭との連携においては『絵本』を子どもと大人の重要な架け橋の一つと捉えて取り組んだ。今年度から進めている絵本室の環境の再構成を次年度もよりきめ細やかに行う。 ・『自発的で具体的な活動』の大切さを小学校にもより、具体的に伝えることができた。さらに次年度は、南浜学区内の他の保育施設との合同研修や、保幼に向けての『育ちのリーフレット』などの配布を行う。
	学校関係者による意見・支援策 ・保幼小（中）の連携は南浜学区の伝統であるので、引き続き地域の行事でのつながりや組織としての連携をみつにして、心の通い合う連携にしていきたい。

（３）自ら体を動かす意欲を育て、基本的な生活習慣を形成し、自信と自立心を育む **心と体・生活習慣**

具体的な取組 ・自ら体を動かしたくなる活動や環境・教師の援助の工夫を積極的に行う。特に年齢が上がるにつれ“少し難しいこと”“てごたえのあるもの”に挑戦できるような環境や援助を行う。 ・自ら楽しく進んで、身の回りの始末（基本的な生活習慣）ができるような援助の工夫をしたり、一人一人の育ちのタイミングに合った援助を行ったりする。	
（取組結果を検証する）各種指標 ・週案・エピソード検討 ・アンケート『体を動かして遊ぶことを楽しんでいるか』『生活習慣が身についてきたか』	

中間評価

各種指標結果 ・週案・エピソード 特に『生活習慣』『身体を動かす活動』の項目から見直し、スモールステップを設けたり、環境の工夫を全教職員で行ったりした。 ・アンケート『体を動かして遊ぶことを楽しんでいるか』　　そう思う・・・１００％ 『生活習慣が身についてきたか』　　そう思う・・・９８％（４・５歳児は１００％）	
自	分析（成果と課題）

己 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年を通して、身体を動かすことを楽しみ、意欲的に取り組む姿が見られる。 ・生活習慣は、着実に身につけているが、家庭との連携をさらに深める必要がある。 ・特に身体を動かす活動や生活習慣を身に付ける過程の中で、自信をもち、他の活動への意欲にもつながる姿が見られる。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・後期では特に、さらに子どもたちが意欲をもって自分のもつ力を十分に発揮できる環境構成の工夫を行う。 ・生活習慣に関しては、さらにきめ細やかに実態を把握し、一人一人に的確な援助を心掛ける。
	<div>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・週案・エピソード検討 ・アンケート『体を動かして遊ぶことを楽しんでいるか』『生活習慣が身についてきたか』
学 校 関 係 者 評 価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣を身に付けるためには、家庭との連携や家庭での取組が大きなウエイトを占めている。園と家庭との信頼関係をさらに深めて、園からも積極的に働きかけていってほしい。

最終評価

自 己 評 価	<div>中間評価時に設定した各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・週案・エピソード 特に『生活習慣』『身体を動かす活動』の項目から見直し、スモールステップを設けたり、環境の工夫を全教職員で行ったりした。 ・アンケート『体を動かして遊ぶことを楽しんでいるか』　そう思う・・・１００％ 『生活習慣が身についてきたか』　そう思う・・・９６％
	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・担任が中心となり、それぞれのクラスの子どもの実態に即した環境や活動を設定したことにより、全員が体を動かして活動することを楽しみ、学年が上がるにつれて少し難しいことにも挑戦してみよう（がんばる心）とする意欲が見られるようになった。 ・生活習慣に関しては、特に３歳児の姿に於いて、大きな育ちが見られた。担任がまず初めは『一緒にしよう』という姿勢を貫いたことで、安心感が高まり、その後の子ども自ら『自分でやってみよう』という意欲の高まりが著しかった。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・今後さらに、自ら選んでする活動の中での自発的な体を動かす活動の環境構成の工夫を行う。 ・生活習慣の形成は個人差が大きいので、引き続き家庭との連携を密にし、特に『援助の仕方』を園と家庭で共有して取り組んでいく。
	<div>重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> ・体を動かす活動はただ単に身体の諸機能の発達を促すだけではなく、様々な『生きる力』の育ちとつながっていることを再認識した。次年度は今まで行っている様々な体を動かす活動の中の、子どもたちにとっての『楽しさ』や『チャレンジしてみようと思えるポイント』をより細やかに捉えて、環境構成に生かしていく。 ・保護者が『援助すべきところ』『見守るところ』を知って、子どもと関わっていくことができるように、保護者と園がさらに連携を強める。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・社会全体としては、体力の低下が叫ばれているが、園児での様子を見てみると、とても活発に活動している。主体的に活動することの大切さを痛感できた。 ・引き続き、学区内で活動する際の安全確保等への支援を行う。

（４）自己発揮と自己抑制の調和のとれた自律性（折り合う心）を育む保育を推進する

信頼関係・折り合い・自己肯定感・公共心の芽生え

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ・安心感の中で、思いきり自分らしさを表すことができるようにする。 ・互いの“違い”を認め合い、してよいことといけなことを子ども自ら判断し、自分と相手の思いが違う時に、年齢に応じて折り合いをつける力を育てる。
（取組結果を検証する）各種指標
<ul style="list-style-type: none"> ・日々の幼児の姿やエピソード分析 ・保護者との懇談など

中間評価

自己評価	各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の幼児の姿やエピソード分析 <p>『ありのままの姿』を表し始める時期は一人一人違うが、教職員が連携して関わることで様々な場面で表れる子どもたちの多様な姿を受け止めることができた。</p> <p>多様な活動の中でこそ、子どもたちの自己肯定感が高められる。教職員が自分のクラスだけではなく、互いに助言をしながら保育をすることで、より多様な活動を展開できるようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者との懇談など <p>子どもを前面に受け止めつつ、『してよいこと』『してはいけないこと』を知らせていくことの難しさを共有しつつ、具体的な関わり方を話し合うことができた。</p>
	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が子どもたちの多様な姿を受け止めることにより、一人一人の子どもたちがより確かな安心感をもって生活することができた。 ・互いに『ありのままの姿』を出し合い、多くの『葛藤体験』をしている。その中で自分と相手の気持ちや思いの『違い』を感じたり、『共感』できたときの喜びを味わったりする姿が見られた。
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・後期では、『葛藤』や『衝突』の場面でもより積極的に自分の思いを言葉で表すことができるような援助を行う。 ・保護者との懇談や日々の会話の中で、より具体的に子どもたちにかける言葉かけや援助について話し合える機会をさらに多くもつ。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の幼児の姿やエピソード分析（特に『葛藤』場面での子どもたちの思いの表出や子どもたち同士の『共感』の場面に焦点を当てる。） ・保護者との懇談・日々の会話の中や、またアンケートの自由記述欄での、子どもたちの育ちを分析する。

学校関係者評価	<div data-bbox="209 118 608 159" data-label="Section-Header"> <p>学校関係者による意見・支援策</p> </div> <div data-bbox="209 165 1444 349" data-label="List-Group"> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的な問題としてこの『折り合う力』は重要なものとなってきた。小手先で『教え込む』のではなく、様々な体験をすることでより深くこの力を育てる姿勢を大切にしていってほしい。 ・日常的な地域での関わり、様々な地域行事の中でもこの力を育てていきたいと考えているので、保護者にも地域との連携を進めていけるよう、園からも働きかけ続けてほしい。 </div>
最終評価	
<div data-bbox="150 430 608 470" data-label="Section-Header"> <p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> </div> <div data-bbox="150 477 1444 658" data-label="List-Group"> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の幼児の姿やエピソード分析（特に『葛藤』場面での子どもたちの思いの表出や子どもたち同士の『共感』の場面に焦点を当てる。） ・保護者との懇談・日々の会話の中や、またアンケートの自由記述欄での、子どもたちの育ちを分析する。 </div>	
自己評価	<div data-bbox="209 672 464 712" data-label="Section-Header"> <p>分析（成果と課題）</p> </div> <div data-bbox="209 719 1444 1137" data-label="List-Group"> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、預かり保育と通常保育の連携を焦点に充てたエピソードを中心に分析を行った。その中で、様々な人間関係（異年齢や大人との関わりも含む）や環境構成・活動の中で、より多く葛藤やそれを乗り越え、『共感』できる体験を重ねることを再確認できた。3学期には特に学年が上がるにつれて、今まで自分の思いを言葉で表出することが難しかった子どもが、できるようになった姿が見られるようになった。 ・日々の保護者との懇談・クラス懇談やアンケートの中で、保護者が『できる・できない』という基準だけではなく、一人一人の心の揺れや葛藤、その中での育ちを実感しておられることが分かる。その育ちの内容は学年ごとに少しずつ変化していくことが分かった。（主に、3歳児・・自立 4歳児・・共同 5歳児・・がんばる力・学びの芽） </div> <div data-bbox="209 1149 552 1189" data-label="Section-Header"> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> </div> <div data-bbox="209 1196 1444 1330" data-label="List-Group"> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度はさらに、通常保育・預かり保育の両者において、それぞれの時期や子どもの実態に応じて、よりの確に再構成していく姿勢を大切にする。 ・引き続き、保護者と共に一人一人の子どもの育ちを細やかに見だし、次の育ちにつなげていく。 </div> <div data-bbox="209 1341 663 1382" data-label="Section-Header"> <p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> </div> <div data-bbox="209 1388 1444 1762" data-label="List-Group"> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの『安心感』→『自立』に向かう育ちのためには、本園がここ数年大切にしている『一人一人の子どもにとっての“安心の居場所”をつくる』というアプローチは、とても重要であることが分かった。次年度もこの『居場所』づくりの視点ももって保育を行っていく。 ・一人一人の発達や特性に応じて、信頼や思いやりの気持ちの育ちのみちすじやスピードは、大きく違うが、一人一人の『育ちの芽』を見逃さない援助をさらに大切にしていく。 ・地域の方々との交流の中で、学年が上がるにつれて、親しみや感謝の思いが増し、自分たちの生活に取り入れる姿もよく見られるようになってきている。このような状況を本園の“伝統”として、下の学年の子どもたちが受けついでいける様な活動の工夫を進める。 </div>
学校関係者評価	<div data-bbox="209 1776 608 1816" data-label="Section-Header"> <p>学校関係者による意見・支援策</p> </div> <div data-bbox="209 1823 1444 1910" data-label="List-Group"> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験活動の中で、自己発揮や自己抑制の力が育つと考えるので、地域の人的・物的環境をこれからも、大いに活用してほしい。 </div>